

CLUSTERPRO

MC StorageSaver 1.1 for Windows

イベントログメッセージ一覧

© 2013(Sep) NEC Corporation

- はじめに
- StorageSaver の運用メッセージ
- その他のメッセージ
- 障害解析情報の採取

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2012.9	新規作成
2.0	2013.9	<ul style="list-style-type: none">・DiskFaultAcion と、DiskStallAcion の値変更 (ActionNone → SericeCmdDisable、ProcessOfSrgstatKillEnable → ServiceCmdEnable) 記載・Windows Server 2012 対応・AutoRecovery と、TestIOMode、RscAction のメッセージ追加

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC StorageSaver 1.1 for Windows（以後 StorageSaver と記載します）の出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

（1）商標および登録商標

- ✓ Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ✓ Windows Server 2003 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating System です。
- ✓ Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
- ✓ Windows Server 2008 R2 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 R2 です。
- ✓ Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
- ✓ EMC、Symmetrix、CLARiX、PowerPath は EMC Corporation の商標または登録商標です。
- ✓ この製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェア(log4net)が含まれています。
著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥bin¥LICENSE.txt
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1. はじめに	1
2. StorageSaver の運用メッセージ	2
3. その他のメッセージ	3
□ サービス起動に関するメッセージ	3
□ プロセス間通信に関するメッセージ	3
□ コンフィグレーションに関するメッセージ	4
□ Srgping に関するメッセージ	13
□ サービス監視に関するメッセージ	14
□ ライセンス管理に関するメッセージ	15
4. 障害解析情報の採取	16
4.1. 本製品の障害解析情報	16

1. はじめに

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
【】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】 ¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config
[]	項目名の前後	[HA StorageSaver]サービスの監視を開始しました。

2. StorageSaver の運用メッセージ

特に重要度の高いメッセージを記載します。

これらの イベントログメッセージを警報対象として監視することを推奨します。

- TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

エラー

パスが Down になりました。(パス = 'パス情報')

説明: TestI/O で パスレベルの異常を検出

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

ドライブレターが Down になりました。(ドライブレター = 'ドライブ名')

説明: TestI/O で ドライブレターレベルの異常(down)を検出

処置: ドライブレターを構成するすべての I/O パスが障害となっています。

早急にディスクの点検を行ってください。

I/O リクエストが時間内に完了しませんでした。(DriveLetter = 'ドライブ名')

説明: TestI/O で I/O ストールを検出

処置: ディスクが故障している可能性がありますので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

I/O リクエストが時間内に完了しませんでした。(Path = 'パス情報')

説明: TestI/O で I/O ストールを検出

処置: ディスクが故障している可能性がありますので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

情報

パスを閉塞します。(パス = 'パス情報')

説明: TestIOFaultAction に BlockPath が設定されている場合に、
TestI/O で パスレベルの異常を検出時に閉塞を行います。

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

3. その他のメッセージ

その他のメッセージの説明を記載します。

これらの イベントログメッセージはディスク装置の故障ではなく、サービスの内部的なエラーや情報のため警報対象として監視することは不要です。

□ サービス起動に関するメッセージ

Srgping のプロセスを KILL できませんでした。

説明: Srgd.exe 実行時に Srgping.exe のプロセスが存在したため、終了させようとしたが失敗しました。

処置: 手動で Srgping.exe のプロセスを終了後、サービスを起動してください。

Srgping を開始します。

説明: Srgd.exe が Srgping.exe を実行し、プロセスの監視を始めました。

処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

Srgping が終了しました。

説明: Srgping.exe が異常終了しました。

処置: 特に必要ありません。Srgd.exe が自動で Srgping.exe を再起動します。

※連続して出力される場合は、サービスが正常に動作していない可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

レジストリからインストールパス情報が取得できませんでした。

説明: レジストリに StorageSaver の情報がない可能性があります。

処置: レジストリの情報を確認してください。情報がない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ プロセス間通信に関するメッセージ

サーバチャネルの作成に失敗しました。(xxx).

説明: Srgd.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても

異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

クライアントチャネルの作成に失敗しました。(xxx).

説明: Srgping.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても

異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

HA StorageSaver サービスの起動状態を確認してください。(xxx).

説明: サービスが開始されていない、または、Srgd.exe を正常に起動できていない可能性があります。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ コンフィグレーションに関するメッセージ

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config が見つかりません。

説明: StorageSaver の起動(システム定義ファイル

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config のオープン)に失敗しました。

処置: システム定義ファイルが存在しません。

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc が見つかりません。

説明: StorageSaver の起動(リソース定義ファイル

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc のオープン)に失敗しました。

処置: リソース定義ファイルが存在しません。

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map が見つかりません。

説明: StorageSaver の起動(構成定義ファイル

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map のオープン)に失敗しました。

処置: 構成定義ファイルが存在しません。

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config の

読み込みに失敗しました。

説明: srg.config ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: srg.config ファイルの内容が不正な可能性があります。

不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

システム定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxx)

説明: srg.config ファイルに設定可能なエントリではないエントリが記載されています。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault の設定可能範囲は 30～2147483647 です。(xxx)

TimeDiskFault は default の値(60)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeDiskFault に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(60)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault のフォーマットが不正です。(TimeDiskFault xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeDiskFault が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeLinkdown の設定範囲は 10～2147483647 です。(xxx)

TimeLinkdown は default の値(180)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeLinkdown に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(180)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeLinkdown のフォーマットが不正です。(TimeLinkdown xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeLinkdown が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeInqInterval の設定範囲は 10～86400 です。(xxx)

TimeInqInterval は default の値(20)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeInqInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(20)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeInqInterval のフォーマットが不正です。(TimeInqInterval xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeInqInterval が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTurInterval の設定範囲は 0~2147483647 です。(xxx)

TimeTurInterval は default の値(180)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeTurInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(180)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTurInterval のフォーマットが不正です。(TimeTurInterval xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeTurInterval が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval の設定範囲は 0~2147483647 です。(xxx)

TimeReadInterval は default の値(0)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeReadInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(0)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval のフォーマットが不正です。(TimeReadInterval xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TimeReadInterval が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction の設定可能な値は ActionNone,BlockPath です。(xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TestIOFaultAction が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction のフォーマットが不正です。(TestIOFaultAction xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている TestIOFaultAction が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskFaultAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable,ServiceCmdEnable です。(xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている DiskFaultAction が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskFaultAction のフォーマットが不正です。(DiskFaultAction xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている DiskFaultAction が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOUse の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)

TestIOUse は default の値(ENABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOUse の値に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(ENABLE)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOUse のフォーマットが不正です。(TestIOUse xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOUse が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BaseTimer の設定値が不正です。(xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている BaseTimer が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BaseTimer のフォーマットが不正です。(BaseTimer xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている BaseTimer が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall の設定範囲は 60~86400 です。(xxx)

TimeDiskStall は default の値(360)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskStall に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(360)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall のフォーマットが不正です。(TimeDiskStall xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskStall が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable,ServiceCmdEnable です。(xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction のフォーマットが不正です。(DiskStallAction xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval の設定範囲は 1~108000 です。(xxx)

WaitTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval のフォーマットが不正です。(WaitTestIOInterval xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DailyCheckTime の設定範囲は 0~23 です。(xxx)

DailyCheckTime は default の値(10)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている DailyCheckTime に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(10)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DailyCheckTime のフォーマットが不正です。(DailyCheckTime xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている DailyCheckTime が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

ExecSyncEnable の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)

ExecSyncEnable は default の値(ENABLE)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている ExecSyncEnable の値に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(ENABLE)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

ExecSyncEnable のフォーマットが不正です。(ExecSyncEnable xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている ExecSyncEnable が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)

TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(DISABLE)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO は ENABLE ですが

OS が Windows Server 2008 R2 ではありません。

TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。
Windows Server 2008 R2 以外で ENABLE が設定されていたため、
デフォルト値(DISABLE)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO のフォーマットが不正です。(TestIOModeMPIO xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode の設定可能な値は Inq, InqTur, InqTurRead, Read です。(xxx)

TestIOMode は default の値(InqTur)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOMode の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(InqTur)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode のフォーマットが不正です。(TestIOMode xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOMode が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

AutoRecovery の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)

AutoRecovery は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明: srg.config ファイルに定義されている AutoRecovery の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(DISABLE)で起動します。

処置: 特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

AutoRecovery のフォーマットが不正です。(AutoRecovery xxx)

説明: srg.config ファイルに定義されている AutoRecovery が不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

**【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc の
読み込みに失敗しました。**

説明: srg.rsc ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: srg.rsc ファイルの内容が不正な可能性があります。

不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

リソース定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxxxx yyy)

説明: srg.rsc ファイルに設定可能なエントリではないエントリが
記載されています。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

FC|SCSI のフォーマットが不正です。(FC xxx)

説明: srg.rsc ファイルに定義されている FC(SCSI)エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx yyyy)

説明: srg.rsc ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

Interface Type エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明: srg.rsc ファイルに定義されている DISK エントリより上に FC(SCSI)エントリ
が記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

**【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map の
読み込みに失敗しました。**

説明: srg.map ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置: srg.map ファイルの内容が不正な可能性があります。

不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

構成定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxxxx yyy)

説明: srg.map ファイルに設定可能なエントリではないエントリが
記載されています。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG のフォーマットが不正です。(PKG xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている PKG エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER のフォーマットが不正です。(DRIVELETTER xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている
DRIVELETTER エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、DRIVELETTER エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている DRIVELETTER エントリより上に PKG
エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

FSTYPE のフォーマットが不正です。(FSTYPE xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている FSTYPE エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、FSTYPE エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

RscAction の設定可能な値は ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnable です。(xxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている RscAction の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
DiskFaultAction に指定されている値で起動します。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、RscAction エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER エントリがありませんが、RscAction エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリより上に
DRIVELETTER エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

RscAction のフォーマットが不正です。(RscAction xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP のフォーマットが不正です。(GROUP xxxx yyyy)

説明: srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、GROUP エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている DISK エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明: srg.map ファイルに定義されている DISK エントリより上に GROUP エントリ
が記載されていません。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

リソース定義ファイルから DISK 情報が参照できません。(DISK xxxx)

説明: srg.map ファイルに定義されている DISK エントリに
srg.rsc ファイルで定義していない DISK エントリが記載されています。

処置: ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

□ Srgping に関するメッセージ

srgping が開始されました。

説明: Srgd.exe が Srgping.exe を開始しました。

処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

BaseTable が取得できません。

説明: コンフィグレーション情報の取得に失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

srgping が停止されました: 終了コード=xxx

説明: Srgping.exe が異常終了しました。

処置: 特に必要ありません。自動で Srgping.exe を再起動します。

※連続して出力されている場合は、サービスが正常に動作していない可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

SPS がインストールされていません。

説明: サービス起動後に、SPS が削除された可能性があります。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

PowerPath がインストールされていません。

説明: サービス起動後に、PowerPath が削除された可能性があります。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

□ サービス監視に関するメッセージ

Srgwatch が開始しました。

説明: [HA StorageSaver Srgwatch] サービスが開始しました。
処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンの監視を開始しました。

説明: [HA StorageSaver] サービスの監視を開始しました。
処置: 特に必要ありません。正常なメッセージです。

Srgwatch が停止しました。

説明: [HA StorageSaver Srgwatch] サービスが停止しました。
処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンを起動します。

説明: [HA StorageSaver] サービスが停止したため、
サービスを再起動します。
処置: 特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンが停止しました。

説明: [HA StorageSaver] サービスが停止したことを検出しました。
処置: 自動で再起動されるため、特に必要ありません。

リソース監視デーモンの起動に失敗しました。

説明: [HA StorageSaver] サービスの再起動を行いましたが、
再起動に失敗しました。
処置: 失敗した場合、再度、自動で[HA StorageSaver]の起動を
行うため、特に必要ありません。

※頻繁に

- ・リソース監視デーモンを起動します。
- ・リソース監視デーモンが停止しました。
- ・リソース監視デーモンの起動に失敗しました。

のメッセージが出力されている場合、サービスが正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡
してください。

□ ライセンス管理に関するメッセージ

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うホスト ID で生成されています。

説明: ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。

処置: 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うプロダクトキーで生成されています。

説明: ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。

処置: 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。プロダクトキーは存在しません。

説明: ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。

処置: ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

ライセンスチェックに失敗。ライセンスは期限切れです。

説明: ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。

処置: 正式版ライセンスを登録してください。

ライセンスツールがインストールされていません。

説明: ライセンスツールがインストールされていません。

処置: ライセンスツールをインストールしてください。

4. 障害解析情報の採取

本製品運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順にしたがって情報採取を行ってください。

4.1. 本製品の障害解析情報

- StorageSaver 構成ファイル群
StorageSaver の構成ファイル群を保存します。
Zip などを使用して、以下に示すフォルダ配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥conf

【インストールフォルダ】¥HA¥StorageSaver¥log

- イベントログ
障害発生時のイベントログファイルを保存します。

アプリケーションログ

Windows Server 2003 の場合

【 windir 】¥system32¥config¥AppEvent.Evt

Windows Server 2008／2012 の場合

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥Application.evtx

システムログ

Windows Server 2003 の場合

【 windir 】¥system32¥config¥SysEvent.Evt

Windows Server 2008／2012 の場合

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥System.evtx

- ホスト情報

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

監視構成ファイル	【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\conf\ 配下の全ファイル
トレースファイル	【インストールフォルダ】\HA\StorageSaver\log 配下の全ファイル
イベントログファイル	Windows Server 2003 の場合 【windir】\system32\config\AppEvent.Evt 【windir】\system32\config\SysEvent.Evt Windows Server 2008/2012 の場合 【windir】\System32\winevt\Logs\Application.evtx 【windir】\System32\winevt\Logs\System.evtx
コマンド出力結果	diskpart コマンドの以下の出力結果 list disk list volume list partition (※1) spscmd -getlun -a (※2) (※1) すべてのディスクの結果を取得 (※2) SPS を使用している場合
クラスタ関連ファイル	(※) クラスタ関連ファイルについては 各クラスタウェア製品により異なりますので、 製品ごとにマニュアルを参照してください。

- 操作ログ

再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

CLUSTERPRO
MC StorageSaver 1.1 for Windows
イベントログメッセージ一覧

2013年9月 第2版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (代表)



© NEC Corporation 2013

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙